

文字対照表

①絵図部分の書き込みを比較した

②異同は下線で示した

番	標題 (書陵部本)	添書 (書陵部本)	標題 (当館本)	添書 (当館本)
1	抗人より四郎を眺む図	関根 地形 紙漉沢 五所	従抗人四郎を眺む図	四村 関根 地形 紙漉沢 五所
2	桜庭村多賀神社之図	旧清水観音堂也	桜庭村多賀神社之図	旧清水観音堂也
3	従田代村廟中畑村図	緑山秀出なるハ高館山なり	従田代村廟中畑村図	緑山秀出なるハ高館山なり
4	田代村渡場之図	左白巖の頂上に枯木一株ありて最美観也 舟ハ丸木を掘りし物也 綱ハネケウと云 蔓なり	田代村渡場之図	左白巖の頂上に枯木一株ありて最美観也 舟ハ丸木を掘りし物也 綱ハネケウと云 蔓なり
5	鐘戸の淵之図	此淵雌谷の沢第一等の深淵也 鱒てふ魚 甚多し 又此湾中奇嵩の傍に飯じに似たる 浮洲あり 土人曰 洲此大なる年豊熟 小な る年ハ半作 見えざる年凶歳と云り	鐘戸の淵之図	此淵雌谷の沢第一の深淵也 鱒てふ魚甚 多し 又此湾中奇嵩の傍に飯じに似たる 浮洲あり 土人曰 此洲大なる年豊熟 小な る年ハ半作 見えざる年凶歳と云り
6	新徳ヶ滝之図	嚴冬氷の節者誠に壯観也 又水大なれハ 豊作 小なれハ不熟と云へり	新徳ヶ滝之図	嚴冬氷の節者誠に壯観也 又水大なるハ 豊作 小なるハ不熟と云へり
7	断岸棧道を造る図	田代 長表間 此他処にあり	断岸棧道を造る図	田代 長表の間 □□□ (数字分磨消)
8	山間に岩峯を眺望之図	田代 長表間 村の見ゆるハ田代村なり	山間に岩峯を眺望之図	田代 長表の間 村の見ゆるハ田代なり
9	鷹巢懸岸之図	岸中穴あるハ則鷹の巢なり 故此名を負 り 今猶此近辺鳥の行通ふ事なしとそ	鷹巢懸岸之図	岸中穴あるハ則鷹の巢なり 故此名を負 り 今猶此近辺鳥の行通ふ事なしとそ
10	長表村岩窟観音堂之図		観音堂之図	長表村岩窟
11	八郎嵩之図	長表村 村市間	八郎嵩之図	長表村 村市村の間 此石ノ表面三人面ノ 附タルアリ 往古八郎ト云者ノ面ヲ此石 ニ押シタリト云
12	香取神社 村市村 区中之図	旧毘沙門堂也 境裡蛇多くして更に人を 恐れす 又捕ることを禁す	香取神社 村市村 区中之図	旧毘沙門堂也 境裡蛇多くして更に人を 恐れす 又捕ることを禁す
13	村市と山神岱間の風景	突山径帯清流と云趣あり	村市と山神岱間の風景	山径帯清流と云趣あり
14	三邑一望之図 村市 山神岱間	三邑ハ山神岱 砂子瀬 川原岱也	三邑一望之図 村市 山神岱ノ間	三邑ハ山神岱 砂子瀬 川原岱也
15	奇石洞中に布列する図	山神岱の麓にして坂上に杉の有処則此村 也	奇石洞中に布列する図	山神岱の麓にして坂上に杉の有処則此村 也
16	砂子瀬村箴橋之図	箴橋より左りの道ハ八光山へ行路也 又 山腹兀たるハ薪材を伐りし跡也 已下皆 同し	砂子瀬村箴橋之図	箴橋より左りの道ハ八光山へ行路也 又 山腹兀たるハ薪材を伐りし跡也 已下皆 同
17	連山邑里を憐る	杉の下に里のあるハ砂子瀬也 左岸白色 にして頂切揃たることく最美観なり	連山邑里を憐る	杉の下に里のあるハ砂子瀬也 左岸白色 にして頂切揃たることく最美観なり
18	川原岱邑頭之図		川原岱邑頭之図	
19	大川箴橋之図	此辺広き野にして郊野寥々瀟と云る風景 あり	大川箴橋之図	此辺広き野にして郊野寥々瀟と云る風景 あり
20	長滝并晴雨考石の図	此日和見石根本に塩吹出ると云	長滝并晴雨考石の図	此日和見石根本に塩吹出ると云
21	漂流の薪材を渡る図		漂流の薪材を渡る図	
22	巨樹溪流に仆るゝ図	此木茸木と名けて薪材になさすと也	巨樹溪流に仆るゝ図	此木茸木と名けて薪材になさすと也
23	小原沢飛泉之図		小原沢飛泉之図	
24	タンタラ嵩之図	此岸二町許の間にわたりて 其形様人工 に出るかことく最奇観なり 又此先鷹落 しと云処にも如此岸あり	タンタラ嵩之図	此岸二町許の間にわたりて 其形様人工 に出るがことく最奇観なり 又此先鷹落 しと云処にも如此岸あり
25	両崖鏡	屹立とも云へき処なり	両崖鏡	屹立とも云へき処なり
26	弁天嵩之図	象頭と云に似て前足なども具足セリ 最 壯観なり	弁天嵩之図	象頭と云に似て前足なども具足セリ 最 壯観なり
27	怪嵩峙崖屋図	是ハ弁天嵩の二に在りて壯観なる物也 何岩と名を負さるハ遺憾なり	怪嵩峙崖屋図	是ハ弁天嵩の二に有りて壯観なる物也 何岩と名を負さるハ遺憾なり
28	堤を放して薪材を流す図	流木縦横に転々して 打合ふ音雷の如く 早き事矢の如し 最有興の観物なり	堤を放して薪材を流す図	流木縦横に転々して 打合ふ音雷の如く 早き事矢の如し 最有興の観物なり
29	鬼河辺の郊野に薪材を積む図		鬼河辺の郊野に薪材を積む図	
30	孕魚肚摺嵩之図		孕魚肚摺嵩之図	
31	柴倉の飛泉之図		柴倉の飛泉之図	
32	曲淵の懸岸を跨る図	三十間許登り 二十間許横ざりて 下るに 又二十間許也	曲淵の懸岸を跨る図	三十間許登り 二十間許横ざりて 下るに 又二十間許也
33	綱に縋りて曲淵を下る図		綱に縋りて曲淵を下る図	
34	水穿岩并松蘿枯木にかゝる図		水穿岩并松蘿枯木にかゝる図	
35	雪洞を潜る図	此処を潜ること三十間余 年と早晚によ りて脩短定まらずとそ 又此辺の樹木冬 枯の如く 未だ葉もさゝすてありし也	雪洞を潜る図	此処を潜ること三十間余 年と早晚によ りて脩短定まらずとそ 又此辺の樹木冬 枯の如く 未だ葉もさゝすてありし也
36	魚留滝并三の滝へ跨る絶壁の図	滝高 巾 共に二丈五尺許 崖を跨ること 二十間余	魚留滝并三の滝へ跨る絶壁の図	滝高 巾 共に二丈五尺許 崖を跨ること 二十間余
37	三の瀑布の図	高十有八丈 巾四丈余	三の瀑布の図	高十有八丈 巾拾丈余
38	二の滝へ登る巖壁の図	此險巖を登ること三十間許 又横に匍匐 ふこと廿六間可	二の滝へ登る巖壁の図	此險巖を登ること三十間許 又横に匍匐 ふこと廿六間可
39	奇石清流に布く図	此処小洞より小鳥一羽撮る 名をしるも のなし 奇鳥也	奇石清流に布く図	此処小洞より小鳥一羽撮る 名をしるも のなし 奇鳥也
40	二の滝の図	高二十余丈 巾四丈余	二の滝の図	高二十余丈 巾拾丈余
41	巖山峻険を踐て一の滝へ跨る図	此險絶を登ること百三十間許	巖山峻険を踐て一の滝へ跨る図	此險絶を登ること百三十間許
42	両兌合流之図	布懸の沢ハ東より 岡伊知古の沢ハ西よ り流るゝなり	両兌合流之図	布懸の沢ハ東より 岡伊知古の沢西より 流るゝなり
43	一の瀑布首頭之図	激流恐るへし	一の瀑布首頭之図	激流恐るへし
44	一の滝之図	高三十有六丈 巾四丈半 三滝すへて七十 有五丈也	一の滝之図	高三十有六丈 巾拾丈半 三滝すへて七十 有五丈也
45	布懸沢大露之図	大略丈七八尺 周り六七寸也 稀に八九尺 又一丈許も有とそ 此両沢山椒魚最多く 他の魚ハ無し	布懸沢大露之図	大略丈七八尺 周り六七寸也 稀に八九尺 又一丈許も有とそ 此両沢山椒魚最多く 他の魚ハ無し
46	柴倉臥龍木之図	半枯れて何木と云をしらず	柴倉臥龍木之図	半枯れて何木と云をしらず
47	柴叢を分けて剣峯を登る図	俗に云ふ馬背と云へき所にして 左右甚 聳たり	柴叢を分けて剣峯を登る図	俗に云ふ馬背と云へき所にして 左右甚 聳たり
48	山を望みて嵩上に憩ふ図		山を望みて嵩上に憩ふ図	
49	川原岱村古風之図	婦人の頭に長き布の手拭様の物を前又後 に結び 裾極て細き布袴を着し 立ながら 給仕する也 燈ハ枯竹なり 男の風ハさ して替りもなければと 言語質朴 云へからず 此十圍に近く地上八間許 両又の所へ水 を漑て小魚生セリ 故此名を負ふとそ	川原岱村古風之図	婦人の頭に長き布を手拭様の物を前又後 に結び 裾極て細き布袴を着し 立ながら 給仕する也 燈ハ枯竹なり 男の風ハさ して替りもなければと 言語質朴 云へからず 此十圍に近く 地上八間許 両又の所へ水 を漑て小魚生セリ 故此名を負ふとそ
50	池の杉之図		池の杉之図	
51	枯杉怪根を露す図	旧清水観音堂の境裡	枯杉怪根を露す図	旧清水観音堂の境裡
52	溪澗産生の図		溪澗産生の図	